

マコモタケ栽培管理情報 -1号-

氷見市マコモタケ組合
氷見市農協営農販売課
高岡農林振興センター氷見班

ほ場の準備をすすめ、初期の生育を確保しましょう。

1 ほ場準備・施肥

- ・雑草が多発しているほ場は、圃場を変更する。今後は、ほ場のローテーションも検討しておく。
- ・秋（収穫期）まで水が確保できるほ場を選定する。
- ・土づくりとして、牛ふん堆肥を2 t/10 a 施用する。
- ・基肥は、分施または肥効調節型肥料（一発肥料）を全層に施用する。
- ・水稻と同様の手順で耕起、施肥、代かきを行う。

〈施肥基準〉

(kg/10 a)

施肥体系	基肥	追肥		肥料成分の合計		
		7月中旬	8月中旬	N	P	K
分施	基肥 555 80 kg	硫安 30kg	硫安 20 kg	22.5	12.0	12.0
一発	Jコート早生専用 100 kg	—	—	24.0	6.0	18.0

2 苗の準備（苗を希望する生産者を対象に4月中～下旬に苗取会を行います）

(1) わき芽を利用する場合

わき目の横に手を入れて、1本ずつ根を付けたまま掘り取る。

(2) 親株を利用する場合

親株はスコップで掘り起こし、根を付けた状態で株分けする。

- ・昨年、マコモタケがならなかった株の近くは採取しない。
- ・草丈が長い場合は、定植後の蒸散を抑えるため、株元から約40～50cm程度になるよう上部をカットする。

植付け間隔	10 a 当たり必要株数
1.0m×1.0m ⇒	約900株
1.5m×1.5m ⇒	約330株

苗(わき芽)を持ち上げた状態



3 植付け方法

- ・植付けの適期は、4月下旬～5月下旬。
- ・植付け間隔は1.0～1.5m×1.0～1.5mとする。
※除草に動力除草機を使用する場合は、1.2～1.5m×1.2～1.5mとする。
- ・1株2本で、苗が倒れない程度の深さに植える。

※掘り取った苗は、なるべく早く植える。

植付け
(あらかじめロープに目印をつけておく)



4 定植後の管理

- ・植付け後から苗が活着するまでやや深水管理とし、活着後は浅水管理で生育を促す。
- ・田んぼがワク場合は、適宜軽く田干しを行う。

5 除草

- ・マコモタケに登録のある除草剤はありません。
- ・抑草のために米ヌカを活用する場合は、植付け3日後に100kg/10 a程度散布する。
(※米ヌカを多く散布すると、生育中に田んぼのワキが強くなるので注意)